

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200234		
法人名	社会福祉法人 桜友会		
事業所名	グループホームほほえみ栄町(東ユニット)		
所在地	岐阜県関市栄町2丁目8番1		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2190200234-00&SerVieCeOd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者1人1人がどんな方であるのか、日々共に過ごす中で「その人」を知り、受け止め、気持ちに寄り添いながら信頼関係を築くことで、利用者が安心して生活できるように支援することを目指しています。利用者の毎日が笑顔であふれるよう、職員は認知症に対する知識を深める為に、毎月のミーティングで接遇、権利擁護、身体拘束廃止、事故防止、アンガーマネジメントなど様々な内容の勉強会を行っています。月に1度のユニット別ミーティングでは利用者の様子やケアプランの見直しを話し合い、今何が問題でどう支援したら解決に繋がるのかを職員全員が意見を出して活発に議論しています。事業所は職員同士が切磋琢磨できる成長の場でありたいと考え、職員の意見が言いやすい様にアンケートをとったり面談をしたり意見箱を設置するなど工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりがその人らしく生き生きと生活できるように、利用者の気持ちに寄り添いながら洗濯物畳み、雑巾縫い、廊下掃除や調理の下拵え等の出来ることを生活レクとして支援しています。コロナ禍で外出の機会が減少し、機能訓練やレクリエーションを工夫し認知症の進行防止や筋力・意欲低下の維持向上に向けて努力しています。開所時から3年を経て、まちづくりのNPOや地域ボランティアの協力が得られるようになり、地域イベントの場所提供、子ども食堂や認知症カフェ、夏祭り等で住民との交流が根付きつつある状況下であった。仕事と家庭の両立、介護人材の育成や職場環境の改善に積極的に取り組み、県や市の認定を受け職員が働きやすい職場としている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を毎月のミーティングで読み上げており理念の共有はできている。コロナ禍の影響で運営推進会議は書面開催で行っている。	法人理念を基に全職員で話し合い事業所理念を作り、日々の介護で反映できるようにしている。こういう事業所にしていきたく、毎月のミーティングで理念を読み上げているが、職員で確認や話し合いができていない。	職員で理念について振り返りや話し合いの機会をもち、理念への理解を深め更に意識して日々のケアに活かす取り組みが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の認知症カフェで地域にいる友達や家族と会う機会となったり、ボランティアの方とのふれあいもある。祭りの日に御神輿が通るのを見せて頂くが、コロナでカフェも中止しており自治会とはあまり交流できていない状況である。	地域の敬老会やイベントの場所提供、子ども食堂や認知症カフェで住民と交流していたが、コロナ禍で中止している。散歩時や花壇の手入れしていると挨拶を交わしたり飲み物をもらったりしている。公園や菊花展に出掛け会話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域住民や自治会、民生委員等参加して頂き、事業所での取り組みをお伝えし意見を頂いている。今は実施できていないが、認知症カフェにて気軽に認知症の相談ができるようチラシを近隣や市役所、包括に配付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの流行で運営推進会議は書面開催で対応している状況である。意見を返信して頂いている。生の声での話し合いはできていない。	コロナ禍で書面開催だが、現状を伝え意見をまとめてメンバーに返している。まちづくりのNPOから地元の情報を得たり、面会制限で不安だと言う意見に早々にリモート面会を実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナについて注意喚起などの連絡は多く頂いている。春に一度コロナ禍での利用者の変化について聞き取り訪問があった。介護相談員はコロナ禍でも来所頂き、職員と事業所の実情について話げできた。	コロナ禍で市に出向き実情を伝える機会は少ないが、カフェ等受託事業の運営、運営推進会議の開催法等については、電話、メールやFAX等で相談している。法改正や制度上の事については法人が市から情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し風通しの良い風土ができるよう検討したり、職員にチェックリストを行い不適切ケア防止に取り組んでいる。内部研修の中に身体拘束についての勉強会も組み込んでおり、今年は権利擁護推進員講習も受講した。	拘束しない指針を定め、定期的に委員会を開催し、毎月の勉強会や法人の研修を実施し拘束しないケアに務めている。虐待・事故チェックリストや自己チェックリスト(職員用、管理者用)を実施し、利用者の行動を制止する言葉にも注意している。帰宅願望ある人には納得するまで付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで職員倫理規程を皆で読み上げており、トイレやキッチンなど目に付くところにも貼り出している。また虐待防止ポスターの掲示、職員意見箱の設置、内部研修での認知症勉強会の実施により職員の意識は高まってきている。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で成年後見制度についての勉強会を開催した。今年は権利擁護推進員講習を受講した。現在の入所者は日常生活自立支援事業など利用する機会はないが、認知症カフェなどで相談を受けることができるよう来年度の内部研修にて研修報告をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約に関する説明とともに高齢者の特性について説明し、万が一の介護事故などについてご家族側の理解も得られるように不安や疑問点などできるだけ丁寧にお答えするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	おこころポストという意見箱の設置(玄関)とともに苦情受付については契約時にも説明している。また運営推進会議や家族会での意見収集ができにくかった今年は、電話連絡や日用品のお届け時を利用して家族との交流に努めた。	利用者の様子を詳細に電話で伝えたり、日用品を持参してもらったりした時に意見を聞いている。ベランダでの面会やリモート面会し、家族に利用者の写真とコメントを添えて送付している。「口調がきつい」と言う意見に職員で話し合った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体で行う事務室アンケートのほか、事業所独自のアンケートも行い意見を集約した。法人側が対応する事案、現場の話し合いで解決していくものに分け、少しずつ解決に向けて話し合っている。	日常の業務内に管理者に伝えたり、ミーティングで意見を出したりして話し合い、記録様式の変更や掃除の分担等を変更した。職員へのアンケートや毎月業務改善案を出し、託児所の利用や希望のシフトで働きやすい職場にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務室アンケートで、職員の就業環境に対する意見を得るようにしている。また、管理者は業務効率化に取り組み時間外労働による負担を減らせるよう、職員同士が協力し合える職場づくりを目指して業務改善に向けて話し合う機会を設けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	成長シートによって自己評価の上管理者の評価を行っている。その後フィードバック面談を行い個々の成長のためにアドバイスをを行い、研修参加の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修が他事業所との意見交流の場になっていると思うが、例年よりその機会が少なかった。現在法人内の違う事業所同士で気軽に悩みや意見を言い合える場を作る計画がある。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前の面談を行い実際にお会いして言葉を交わす中で特に笑顔で丁寧に接することを心がけている。話の中で本人の要望や入所についての不安がないかを聞きだせるような雰囲気と質問ができるように意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用するに至った経過や家族の思い、本人の様子などの情報を頂き、特に家族の思いには親身に傾聴し対応することを心がけている。入所して日が浅い時期はこまめに本人の様子を伝えたり写真をお渡ししたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時にお話を伺う中で、本人と家族にとって最善の方法を考えながら支援方法を話し合うようにしている。コロナ禍での制限を考慮しつつできる範囲での支援を提案させて頂くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや洗いのなど本人のできることをやって頂くよう支援することで、職員からもやりがいや頼られる喜びを得られるような声かけを心がけており、暮らしをともにするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を伝え、面会制限のある中でも絆が薄れないよう家族にできる支援をこちらからも願っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会制限外出制限の中で、主治医への受診はなるべく継続していただいた。ドライブや外出は近場の身近な場所を選ぶことで少しでもなじみの思い出を絶やさないようにした。	事業所の電話での取り次ぎ、携帯電話の充電や操作方法の支援をしている。手紙や年賀状を書く手伝いや代筆をして、利用者とポストに投函している。通所やカフェ利用者と一緒におやつを食べたり会話したりしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や気分の変化もあり、個別に対応する場合もあるがレクリエーションや行事に参加して頂くことでよい交流の機会が持っている。その中でお互いを気遣う場面も見られ、また仕事を分け合って協力する姿も見られている。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能な時は様子を見に行ったり、契約終了後の別のサービスの提案をしたりしている。町で家族とばったり会うこともあり、その後の様子をお聞きしたり関係が途切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは本人の思いを傾聴し受け止めるように心がけている。その思いを実現するにはどうしたら良いかを職員同士で話し合い、方法を探るようにしている。	利用者が自分の言葉で言えるように、その人にあった聞き方で思いを把握している。夜間居室でゆっくりと聞く場合もある。困難な人には表情や行動で把握したり、家族に聞いたりしている。毎日お酒を飲む人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントから得られる情報に加え、家族からの聞き取りや本人との会話の中から情報収集に努めている。必要に応じてこれまでのサービス利用に関わった専門職からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常をともに過ごす中で得られる個々人の様子を職員間で共有できるよう、申し送りノートや個人記録のほかメモやミーティングでの情報交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもちろん、家族、ドクター、その他専門職と連携してプランを作成するように努めている。毎月のユニット別ミーティングで現状のプランの見直しを行っている。	サービス内容はケアチェック表に、評価、支援経過について詳細に記載している。毎月のミーティングで利用者の状態、変化の有無やニーズの変更等について話し合い、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には関わった職員がケアの気づきや工夫を記録するとともに、メモやボードを活用してこまめに申し送りをするようにしている。ユニット別ミーティングではモニタリングも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を支えるため、本人の訴えや家族の意向も聞き、現場からの提案も参考にしながら柔軟にサービス利用を検討している。コロナ禍で中止しているものもあるが、訪問歯科、訪問理美容、訪問マッサージ、傾聴ボランティアの活用がある。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ蔓延の前には地域の情報から赤ちゃん訪問やカフェでのボランティア活用に力を入れたいと構想はあったが、実現できずに至っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は希望に沿ってそのまま受診を継続していただく体制をとっている。高井クリニックの往診を希望された場合は往診前に医師に現状報告をしている。	入居時に協力医に変更する人が多い。かかりつけ医を受診時は家族が同行し、日頃の様子を口頭又は書面で伝え、受診後に報告を受けている。希望で歯科の訪問診療や訪問リハビリを利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場での判断に迷うちょっとした気付きをD Sの看護師や高井クリニックの看護師に相談している。そこから主治医に相談したほうがいいのか判断を頂き、受診につながるケースもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族や病院と連携をとり、状況や状態の把握に努めている。退院に向けてこちらからも足を運び病院関係者と日程調整や情報交換を行う体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化や看取りに関しての説明を行い、家族の意向確認と事業所の方針はお伝えしている。また早い段階から主治医や家族、職員で話し合いを行って調整している。実際にここで看取りに至るケースはないが体制は整えている。	契約時に重度化した場合や看取りについての同意を得ている。医師の指示で栄養剤の補給や水分にトロミ剤使用等の対応をしている。状態が悪化時は、医師が家族に説明し職員と一緒に方向性を話し合っている。看取り研修を行い家族の希望があれば対応できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを掲示してある。全職員がAEDの使い方や救命救急の勉強会に参加しており訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。今年は夜間想定火災時避難訓練も実施した。BCPマニュアルも作成済みで、職員にもマニュアルについて勉強会を行った。地域との協力体制については調整中である。	夜間想定も含め避難訓練を実施し、時間計測し反省点を職員で話し合っている。水、食料、日用品や感染症対策用品を備蓄している。緊急時の住民の避難所的受け皿を要請され認識しているが、訓練時に地域の人への協力依頼や話し合いができていない。	コロナ禍ではあるが、様々な機会に地域の協力が得られるような働きかけが望まれる。

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症勉強会やアンガーマネジメント勉強会を通じて利用者の人権尊重や接遇について学んでいる。着替えやトイレ時などのプライバシー保護について言葉かけの仕方について職員はお互いに注意しあえる関係づくりを目指している。	接遇研修を行い人生の先輩として尊重した言葉かけをし、不適切な言葉かけには職員同士で注意している。希望の呼び名とし、居室の表札に好きな花・飲み物や物品等の絵を飾っている。起床・就寝時間も自由に居室で食事する場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の業務の中で、利用者に寄り添い利用者の気持ちになって行動の意味を考えるよう心がけている。職員の経験値で差はあるが、勉強会で知識をつけることや継続した人材育成も力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを大切に一人ひとりに合わせた対応を心がけている。自己決定を促す言葉かけになっているか見直す機会を設けていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みは家族からの情報を元に、日々の関わりの中で発見できることもある。服を選ぶ際は本人の希望に沿った支援をしている。女性はマニキュアや行事の際、着物の写真撮影などとても喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、片付けを利用者にやって頂いたり、おやつ作りや干し柿作りを利用者と一緒に行っている。また給食委員会では嗜好調査も行っている。	毎月の食事アンケートで希望の献立や行事食がある。おやつ作りやケーキのデコレーション、下拵え、配膳や片づけを利用者と一緒に行っている。弁当や寿司のテイクアウトを利用するなど食事が楽しみとなるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は職員が把握しやすいよう排泄チェック表に記入できるようにしてある。決まった時の水分補給以外にもみんなでティータイムをしたり、水分摂取の少ない方にはゼリーで対応するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で口腔ケアを行ってもらっているが、必要な利用者には職員が仕上げ磨きやすすぎなど、援助している。口腔ケアの実施で誤嚥性肺炎の予防になるという意識を持って介入させて頂いている。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるよう努めている。排泄用品の種類や失敗を減らせるような対策については職員同士で意見交換している。	大きな文字で「トイレ」「便所」と表示し、トイレの場所をわかりやすくしている。パッドの種類を検討したり、夜間のみポータブルトイレ使用や声かけしたりして自立できるようにしている。体調不良時は二人で介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については個人差や原因と思われることへの対策をしつつ必要に応じて便秘薬を服用して頂いている。水分摂取が少ない方についてはアガーで作ったゼリーで補給したり運動や歩行を一緒に行ったり腹部マッサージをレクで取り入れる等工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。2ユニットで一つの風呂を使用する為曜日や時間は一通り決めている状況だが、その時の気分や体調により臨機応変に変更対応はしている。入浴剤を使用したり時には季節の自然のものを入浴剤として取り入れている。	希望のシャンプーやボディソープを使用する人もいる。季節のヨモギ、柚、バラの花やローズマリーや市販の入浴剤を入れ楽しみな入浴にしている。嫌がる人には、時間をおき声かけの工夫をしている。状態に合わせて足浴や清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に配慮しつつ、規則正しい生活リズムができるよう支援している。安心して入眠できるよう話につき合ったり一緒に温かい飲み物を飲むなど、利用者寄り添った支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の情報に目を通し、全員が薬のセットに関わる体制に変更したことで、おおまかではあるが薬の種類や用法が理解できている。Dr. の指示により薬の変更があった場合は申し送りノートに記載し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け、配膳、コップ洗い、洗濯物たたみなど、生活歴に応じた役割を持って頂いている。また雑巾縫い、廊下の掃除などその人に合わせた支援を行っている。現在はお酒を楽しむ方もいらっしゃる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外に出て日光浴や花壇の様子を見るなど気分転換して頂いている。現在は外出制限があるが、季節によりドライブに出かけることで地域の雰囲気を楽しむようにしている。	外出した気分になるようなクイズを出す、モーニング喫茶にする、鳥居や賽銭箱を置き、絵馬を貼り初詣の雰囲気にする等の工夫をしている。菊花展や公園へ紅葉狩りに出掛け、受診時は家族にドライブをお願いしている。花壇を見る、洗濯物を干す、日光浴をするなど外気に触れる機会を作っている。	

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金を持つことはできていないが、季節により外出先で買い物や飲食でお金を使う機会を設けていた。現在はコロナによる制限でその機会が得られていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	人によっては携帯電話で家族と交流を取っている。今年は面会制限で家族との交流の機会が少なかったこともあり、レクで大切な人への年賀状を書いて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁に大きな木を貼り、季節の移り変わりに沿って木の装飾を変えて季節感を感じて頂けるようにしている。花壇の花を摘んで飾ったり、季節の花や草などを飾ることもある。人によってまぶしさが気になる方があり、カーテンを閉めてしまっていることはある。	玄関に寄せ植えや観葉植物を置き、雛壇を飾り季節毎に装飾を変えている。職員の顔写真をひまわりや猿に見立て分かりやすく掲示している。新聞、雑誌や写真集等を自由に読めるようにしている。空気清浄機や次亜塩素酸空間除菌脱臭機を置き、換気や消毒等の感染症予防にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置いたり、テーブルごとに気の合う方同士で交流できるよう席の配慮もしている。静かに過ごしたい時は廊下のソファを活用していただけるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は個人のもので持参してもらい、本人の希望に沿って家具などスペース的に問題がない程度のは持ち込んで頂いている。また自分でやった塗り絵や思い出の写真など飾っている方もある。	使い慣れた寝具類、TV、時計、イスやチェスト等を持ち込み、家族写真、花、自分の作品等を飾ったり、カレンダーを掲げたりしている。日記を書く、雑巾縫いをする、家族との思い出日記を読み思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きく表示を貼ってあり、浴室扉には今月の入浴順を表示して分かりやすくしている。自分の部屋が分からなくなってしまふ方には好きな花の飾りを居室ドアに貼り付けるなど工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200234		
法人名	社会福祉法人 桜友会		
事業所名	グループホームほほえみ栄町(南ユニット)		
所在地	岐阜県関市栄町2丁目8番1		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者1人1人の気持ちを受け止めながら、安心でき、馴染みやすい生活を送って頂けるよう心掛けています。レクリエーションでは手や足と同時に言葉を使う事で、筋力維持や脳の活性化へとつながられる様、レパトリーを増やししながら工夫しております。また、日常の小さなことでも自己決定ができるような声かけを意識しながら支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2190200234-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年2月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を毎月のミーティングで読み上げており理念の共有はできている。コロナ禍の影響で運営推進会議は書面開催で行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の認知症カフェで地域にいる友達や家族と会う機会となったり、ボランティアの方とのふれあいもある。祭りの日に御神輿が通るのを見せて頂くが、コロナでカフェも中止しており自治会とはあまり交流できていない状況である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域住民や自治会、民生委員等参加して頂き、事業所での取り組みをお伝えし意見を頂いている。今は実施できていないが、認知症カフェにて気軽に認知症の相談ができるようチラシを近隣や市役所、包括に配付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの流行で運営推進会議は書面開催で対応している状況である。意見を返信して頂いている。生の声での話し合いはできていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナについて注意喚起などの連絡は多く頂いている。春に一度コロナ禍での利用者の変化について聞き取り訪問があった。介護相談員はコロナ禍でも来所頂き、職員と事業所の実情について話げできた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し風通しの良い風土ができるよう検討したり、職員にチェックリストを行い不適切ケア防止に取り組んでいる。内部研修の中に身体拘束についての勉強会も組み込んでおり、今年は権利擁護推進員講習も受講した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで職員倫理規程を皆で読み上げており、トイレやキッチンなど目に付くところにも貼り出している。また虐待防止ポスターの掲示、職員意見箱の設置、内部研修での認知症勉強会の実施により職員の意識は高まってきている。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で成年後見制度についての勉強会を開催した。今年は権利擁護推進員講習を受講した。現在の入所者は日常生活自立支援事業など利用する機会はないが、認知症カフェなどで相談を受けることができるよう来年度の内部研修にて研修報告をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約に関する説明とともに高齢者の特性について説明し、万が一の介護事故などについてご家族側の理解も得られるように不安や疑問点などできるだけ丁寧にお答えするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	おこころポストという意見箱の設置(玄関)とともに苦情受付については契約時にも説明している。また運営推進会議や家族会での意見収集ができにくかった今年は、電話連絡や日用品のお届け時を利用して家族との交流に努めた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体で行う事務室アンケートのほか、事業所独自のアンケートも行い意見を集約した。法人側が対応する事案、現場の話し合いで解決していくものに分け、少しずつ解決に向けて話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務室アンケートで、職員の就業環境に対する意見を得るようにしている。また、管理者は業務効率化に取り組み時間外労働による負担を減らせるよう、職員同士が協力し合える職場づくりを目指して業務改善に向けて話し合う機会を設けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	成長シートによって自己評価の上管理者の評価を行っている。その後フィードバック面談を行い個々の成長のためにアドバイスを行い、研修参加の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修が他事業所との意見交流の場になっていると思うが、例年よりその機会が少なかった。現在法人内の違う事業所同士で気軽に悩みや意見を言い合える場を作る計画がある。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前の面談を行い実際にお会いして言葉を交わす中で特に笑顔で丁寧に接することを心がけている。話の中で本人の要望や入所についての不安がないかを聞きだせるような雰囲気と質問ができるように意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、家族の本人への思いや困りごと等を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時にお話を伺う中で、本人と家族にとって最善の方法を考えながら支援方法を話し合うようにしている。コロナ禍での制限を考慮しつつできる範囲での支援を提案させて頂くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや洗いのなど本人のできることをやって頂くよう支援することで、職員からもやりがいや頼られる喜びを得られるような声かけを心がけており、暮らしをともにするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を伝え、面会制限のある中でも絆が薄れないよう家族にできる支援をこちらからもお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会制限外出制限の中で、主治医への受診はなるべく継続していただいた。ドライブや外出は近場の身近な場所を選ぶことで少しでもなじみの思い出を絶やさないようにした。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事、軽作業等を通じて良好な関係を築けるよう、座席などを工夫している。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能な時は様子を見に行ったり、契約終了後の別のサービスの提案をしたりしている。町で家族とばったり会うこともあり、その後の様子をお聞きしたり関係が途切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の表情や行動から本人の希望に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントから得られる情報に加え、家族からの聞き取りや本人との会話の中から情報収集に努めている。必要に応じてこれまでのサービス利用に関わった専門職からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が出来る事と出来ない事の確認に努めている。1人ひとりの生活のリズム・yz体調の変化等を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を定期的に見直して作成しており、家族の同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容にもとづいて、記録を分かり易いように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を支えるため、本人の訴えや家族の意向も聞き、現場からの提案も参考にしながら柔軟にサービス利用を検討している。コロナ禍で中止しているものもあるが、訪問歯科、訪問理美容、訪問マッサージ、傾聴ボランティアの活用がある。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ蔓延の前には地域の情報から赤ちゃん訪問やカフェでのボランティア活用に力を入れたいと構想はあったが、実現できずに至っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と定期的な往診体制が整っている。(月に1回)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場での判断に迷うちょっとした気づきをDの看護師や高井クリニックの看護師に相談している。そこから主治医に相談したほうがいいのか判断を頂き、受診につながるケースもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族や病院と連携をとり、状況や状態の把握に努めている。退院に向けてこちらからも足を運び病院関係者と日程調整や情報交換を行う体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化や看取りに関しての説明を行い、家族の意向確認と事業所の方針はお伝えしている。また早い段階から主治医や家族、職員で話し合いを行って調整している。実際にここで看取りに至るケースはないが体制は整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを掲示してある。全職員がAEDの使い方や救命救急の勉強会に参加しており訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。今年は夜間想定火災時避難訓練も実施した。BCPマニュアルも作成済みで、職員にもマニュアルについて勉強会を行った。地域との協力体制については調整中である。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症勉強会やアンガーマネジメント勉強会を通じて利用者の人権尊重や接遇について学んでいる。着替えやトイレ時などのプライバシー保護について言葉かけの仕方について職員はお互いに注意しあえる関係づくりを目指している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の業務の中で、利用者に寄り添い利用者の気持ちになって行動の意味を考えるよう心がけている。職員の経験値で差はあるが、勉強会で知識をつけることや継続した人材育成も力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを大切に一人ひとりに合わせた対応を心がけている。自己決定を促す言葉かけになっているか見直す機会を設けていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みは家族からの情報を元に、日々の関わりの中で発見できることもある。服を選ぶ際は本人の希望に沿った支援をしている。女性はマニキュアや行事の際、着物での写真撮影などとても喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、片付けを利用者にやって頂いたり、おやつ作りや干し柿作りを利用者と一緒に行っている。また給食委員会では嗜好調査も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は職員が把握しやすいよう排泄チェック表に記入できるようにしてある。決まった時の水分補給以外にもみんなでティータイムをしたり、水分摂取の少ない方にはゼリーで対応するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で口腔ケアを行ってもらっているが、必要な利用者には職員が仕上げ磨きやすすぎなど、援助している。口腔ケアの実施で誤嚥性肺炎の予防になるという意識を持って介入させて頂いている。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるよう努めている。排泄用品の種類や失敗を減らせるような対策については職員同士で意見交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については個人差や原因と思われることへの対策をしつつ必要に応じて便秘薬を服用して頂いている。水分摂取が少ない方についてはアガーで作ったゼリーで補給したり運動や歩行を一緒に行ったり腹部マッサージをレクで取り入れる等工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。2ユニットで一つの風呂を使用する為曜日や時間は一通り決めている状況だが、その時の気分や体調により臨機応変に変更対応はしている。入浴剤を使用したり時には季節の自然のものを入浴剤として取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に配慮しつつ、規則正しい生活リズムができるよう支援している。安心して入眠できるよう話につき合ったり一緒に温かい飲み物を飲むなど、利用者に寄り添う支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の情報に目を通し、全員が薬のセットに関わる体制に変更したことで、おおまかではあるが薬の種類や用法が理解できている。Dr. の指示により薬の変更があった場合は申し送りノートに記載し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のその日の状態を考慮しつつ役割の支援を行い、好きなお菓子を食べていただいたり施設内を散歩されるなどメリハリがあるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外に出て日光浴や花壇の様子を見るなど気分転換して頂いている。現在は外出制限があるが、季節によりドライブに出かけることで地域の雰囲気を楽しむようにしている。		

グループホームほほえみ栄町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金を持つことはできていないが、季節により外出先で買い物や飲食でお金を使う機会を設けていた。現在はコロナによる制限でその機会が得られていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	人によっては携帯電話で家族と交流を取っている。今年は面会制限で家族との交流の機会が少なかったこともあり、レクで大切な人への年賀状を書いて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁に大きな木を貼り、季節の移り変わりに沿って木の装飾を変えて季節感を感じて頂けるようにしている。花壇の花を摘んで飾ったり、季節の花や草などを飾ることもある。人によってまぶしさが気になる方があり、カーテンを閉めてしまっていることはある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者1人1人落ち着かれる場所の把握を職員同士情報共有し安心して安全な場所であるよう見守りや声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は個人のもので持参してもらい、本人の希望に沿って家具などスペース的に問題がない程度のは持ち込んで頂いている。また自分でやった塗り絵や思い出の写真など飾っている方もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きく表示を貼ってあり、浴室扉には今月の入浴順を表示して分かりやすくしている。自分の部屋が分からなくなってしまふ方には好きな花の飾りを居室ドアに貼り付けるなど工夫している。		